

# IBLの考え方と手順

医学部保健学科 花田裕子

# IBL (Inquiry Based Learning)とは

- 少人数でのグループ学習
- 探究心を育てる学習法
- 知識を詰め込むのではない
- 疑問や興味をもって調べたり考えたりしていくなかで、知識を身につけていく
- 自分の意見をわかりやすく伝える力や、相手の話の要点を理解する力を養う

# IBLのねらい(1)

- 事実に基づいて考える

批判的思考(critical thinking)を養う  
相手の欠点を指摘するような批判を  
するのではなく、質問をしたり、されたり、

納得の行くまで話し合う、推論する、  
分析する。

- 情報、知識を統合する能力を養う

## IBLのねらい(2)

- 自分で調べる(自己学習能力)を養う  
受身的に講義を受けたり、知識を詰め込むのではなく自分で学ぶちからを養うことを重要視する。  
研究心、探究する力を養う。

# IBLのねらい(3)

- 共同で学習する力を養う  
看護職に求められる共同できる力や  
チームとしての協調性を養う

# IBLの学習方法

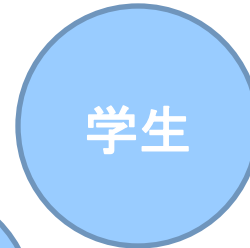
- 事例について考える
- 事例はパートに分かれている

# パートについて考える

- 事実
- 仮説
- 必要な情報
- 調べる項目

# IBLのポジション

模造紙に向かって弧を描くように座る



模造紙を横にして  
二枚貼る



# 記述しながら学ぶ

| 事実  | 仮説 | 必要な情報 | 調べる項目 |
|-----|----|-------|-------|
| 1枚目 |    | 2枚目   |       |



# — 事 実 —

- ケースに関する事実
  - 主観的な情報
  - 客観的な情報

# — 仮 説 —

- この事実は何を意味しているかを推論する
- 問題が生じた理由を推論する
- いくつかの事実を組み合わせて考えられることを推論する

# —必要な情報—

- 仮説を証明するために、今ある情報以外に必要な情報
- その情報があれば何が考えられるのか、という根拠を持つ
- この事例に関する個別な情報も含む

# —調べる項目—

- 何を知りたいのかを明らかにする
- 知識がないと考えがすすまない  
事実、仮説、必要な情報の重要事項  
の中でわからないこと
- 一般的なことでも良い

# IBLの学習方法

- 限られた時間の中で集中して考える
  - 事 実 5－7分
  - 仮 説 10分
  - 必要な情報 10分
  - 調べる項目 7－10分

# IBLの学習方法

- 役割を担う

- チューター (教員)
- 司会
- 書記
- 時計係
- メンバー

学生

# チューター

- 学生の思考が停滞した時に助ける
- 講義、説明、まとめるなどはしない



# 司 会

- 「どなたかパート1を読んでくれる人はいませんか」と自発性を促す
- 「事実をあげて下さい」などと時計係とあらかじめ時間配分を決めて進行
- メンバー全員が参加できるように配慮する

# 時計係

- 司会とあらかじめ時間配分を決めておき、その時間が終了する1分前になったら「あと1分です」と伝える
- 予定の時間で終わりそうもない場合は、司会と相談して調整する

# 記録係

- 出された意見を、そのまま模造紙に書く

# IBLの学習方法

- 司会、記録係、時計係は、それぞれの役割を担いながらも、意見を言う
- メンバーはIBLがうまく進行するよう協力する

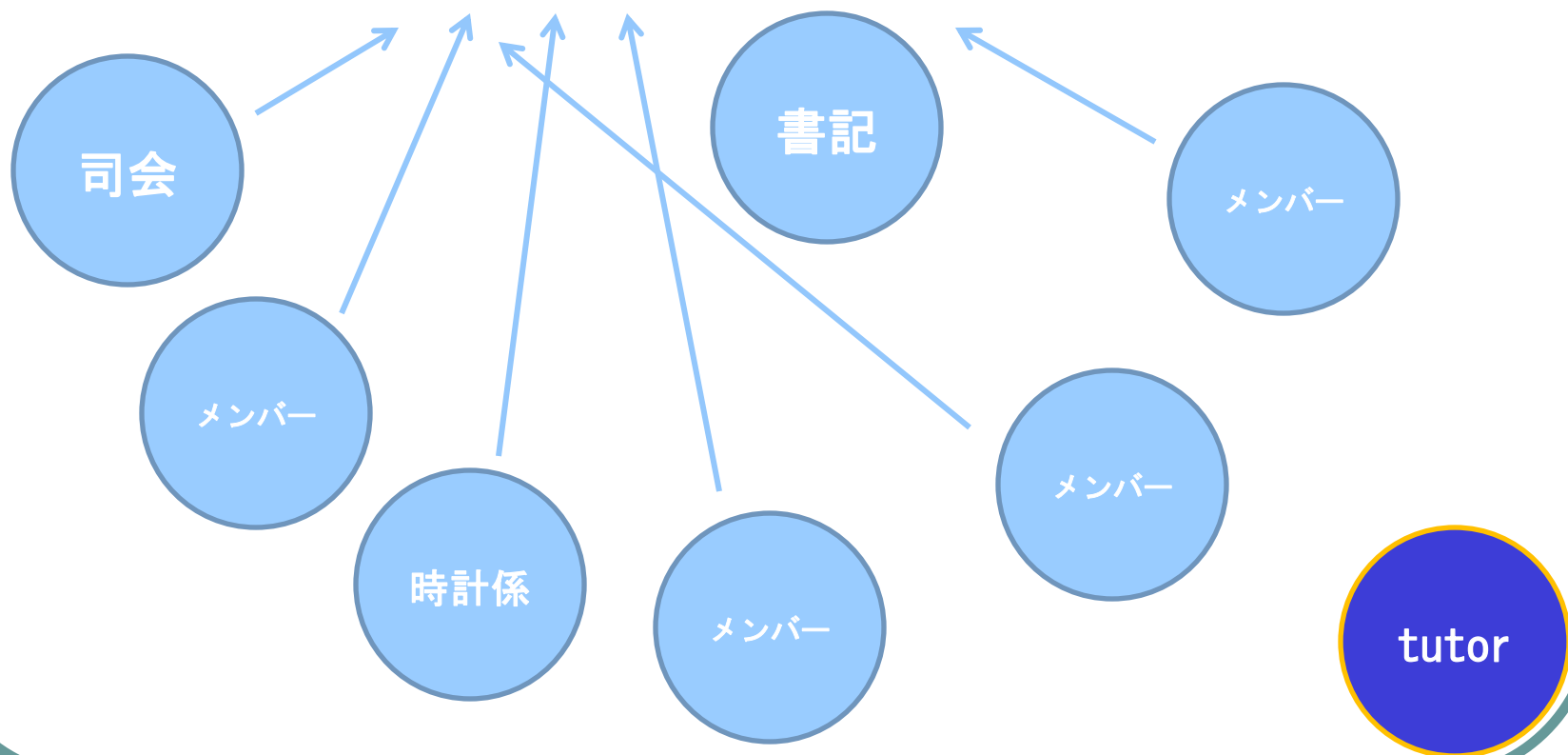
# 記述しながら学ぶ

| 事実  | 仮説 | 必要な情報 | 調べる項目 |
|-----|----|-------|-------|
| 1枚目 |    | 2枚目   |       |



# 模造紙に向かって弧を描くように座る 模造紙に向かって討議

## 模造紙



もうパートの書かれた紙片は見なくて良い

- 今日の振り返り

— 最後の10分～15分必ず行う —

- 今日の学習の成果、自分の参加の仕方、

今後の抱負などについて一人ずつ述べる。

- チューターも振り返りを行う

# IBLの学習方法

- 調べる項目をグループで共有  
調べてきた項目を単に発表するだけではない。調べてきたことにより「わからないこと」が明らかになり、もう一度模造紙に戻って事例を考える。
- それまでの模造紙は貼っておく



# Topic: 家族と生きる

## 学習目標

- 家族の意味について考える
- 予後の悪い患者と家族の心理を考える
- 生きるということが何によって支えられているか考える

# Resources : 資源

- 施 設： 大学図書館、県立図書館
- 人 書 : 教員、友人、家族、図書館司

# IBLの学習方法

- コンテント  
内容・結果
- プロセス  
過程・感情

# 標準到達目標

- 事例をあげ、その事実から仮説を推論することができる。
- 仮説を明らかにするために必要な情報を考えられる。
- わからない項目は何かを明らかにすることができる。
- 限られた時間の中で思考することができる。
- 自分の意見を表現することができる。
- 他のメンバーの意見を聞くことができる。

# 余裕があれば到達してほしい目標

- 他のメンバーと意見交換をすることができる。
- 学習してきた内容を他のメンバーにわかりやすく効果的に伝えることができる。

# 評価

- 自己評価・他者評価
  - 教員による評価
  - 学生の自己評価
  - ピア評価
  - 学生による授業評価

# 準備

- チュータートレーニング
- 事例の作成
- チューターガイド
- 資源(文献、資料など)

# 実施上の課題

- チューターの確保
- 場所(小さな教室が多数必要)
- 教員が実践できる場(フィールド)
- 事例作成に要する時間
- チューターのフォローアップ
- 資源(文献、資料)の準備